

ふしみさらだボール子育て情報



「幼児の優良環境」
令和3年6月2日号
板橋富士見幼稚園



幼児に正しいメディア提供を

幼児への電子機器情報の与え方について、注意喚起したいと思います。幼児期から、電子機器を遊びの道具として与え、一人静かに YouTube や電子映像そして、テレビ番組などを与えている家庭が増加しています。幼児に優良な映像を情報として与える責任者は保護者です。今回は、日頃何気なく子どもと一緒に見ているテレビ番組や、アニメ番組、YouTube などの質について考えてみましょう。



まず、映像に使われている色彩からお話します。ご家庭や自然環境と異なり、かなりの色の混在色が子ども達の目に飛び込んできます。その混在色は、電子彩色のため、強い刺激色とフラッシュの連続による強度の刺激を与えられていると言われています。必ず室内を明るくして、距離は、1メートル以上離して見せるよう心がけましょう。時間は、30分以内です。

次に、質的な面についてお話します。1歳から5歳までは、強い刺激の番組について十分注意してください。特に、戦隊番組や残虐な番組、反社会的行為を含む番組などを視聴させていると、虚構と現実の境が判断つかなくなり、現実の中で再現化して遊びの相手に対して攻撃的になったり、武器をかざして襲いかかったり、残虐な行為を実行したりすることがあります。言葉の乱れは、強い刺激からの感情の揺さぶりによって獲得されていくので、一度覚え獲得されると、強い感情に出会った瞬間にその言葉がよみがえり、相手を威圧したり、罵声したりする事となります。

最近では、鬼滅の刃などの番組は、乳幼児にとっては強い刺激ある番組と言ってもいいかもしれません。刃物や武器で再現遊びを虚構として楽しむことは、決して悪いことではないのですが、物の判断がまだ曖昧な時期の子どもは、規範がしっかりと身につけていないので控えることをおすすめします。

時代の変化に伴い、情報は氾濫状態です。日本は、子どもに視聴させる不適切番組に対する「メディアリテラシー（テレビの規制知識教育）」が世界的にも遅れているため、十分に注意しながら活用してほしいと思います。

子どもの正しい育ちに繋がる番組を見せる選択ができるのは、親以外に居ません。是非、心豊かな心情が育つ番組を精選してあげてほしいと思います。